



第三十三話 子育ての相談役

濃代「おとなりさん、赤ちゃんが産まれたそうよ。」
茂子「そうなの？それは、一度赤ちゃんを見たいわね。かわいいでしょうね。」
（1ヶ月後）
茂子「初めての子育てはどうか？」
美子「そうですね、主人も手伝ってくれるしだいぶ慣れてはきましたけど、よく泣く子なので不安になることもあります。主人と子どもと3人暮らしなので、すぐに相談できる人もいなくて...」
茂子「私も上の子の時は、分からないことばかりで不安になったわ。お母さんにいろいろ聞いて教えてもらったものよ。私で良ければ相談して

ね。」
美子「ありがとうございます。聞いてもらうだけでも安心します。先日、この地区担当の母子保健推進員さんにお電話をいただき、心配事はないですか？と声をかけてもらって、少し話したら気分が落ち着いたんです。」
茂子「そう、それはよかったですね。実は私の友人も母子保健推進員をやっているらしいの。子育て経験のある、温かい人ばかりという話よ。」
母子保健推進員って？
市が行う母子保健事業の充実を図るため、活動をしている人です。現在、22人の母子保健推進員がいます。

どんな活動をしているの？
・乳幼児健診・相談事業での身体計測の実施、受付補助、健診用配布物のセット
・育児教室での託児
・お誕生おめでとうコール
・母子保健事業の紹介・勸奨
・手作りおもちゃの作成、健康祭りでのおもちゃの配布・展示
・年3回程程度の会議や研修会など
地区担当の母子保健推進員は、母子手帳交付の際にお知らせします。
相談相手の1人として、ぜひ覚えておいてください。お問い合わせは健康課まで。

だえん

便利さと人間の感覚

世の中、便利になってきました。多くの人は、もっと快適な生活を求めているように見えます。あなたは、自分の周りを見て何かおかしいと思うことはありませんか？
例えば、赤ちゃんのオムツ。布オムツがベランダに干してあるのを見かけることが少なくなってきました。紙オムツを使う親が増えてきたからだと思います。紙オムツは、洗濯の手間を省き、ぬれても表面はさらっとしているのが長所です。では短所はないのでしょうか。
赤ちゃんはおしっこをしてもぬれたことを感じません。だから、感じる力が育ちにくくなります。また、オムツがぬれて気持ち悪いといって泣きまわります。泣かないので、親は気付かずそのまましておきます。中には、気付いていてもまだ少しだけだから、ずっしりと重くなるまで使わないのもつらいという親もいるそうです。

また、オムツを替える回数も減るので、親が肌をさすってあげるというスキンシップの回数や語りかける回数も減ってきます。たかが、オムツですが、最近オムツが、保育園の年少に入園するときにとれていない子が増えてきています。保育園に入れば、しつけてもらえるからと無理してとらなくても大丈夫という親もいるようです。しつけていくことは、根気と努力のいることですが、親の願いを少しずつ上手に伝えていくことであり、情緒の形成に影響をあたえていくことです。また、子どもは、毎日の小さな積み重ねによって、脳の神経を形成していきます。
親が、自分の都合ばかりを優先しすぎると、知らず知らずのうち子どもが親の思いとは違う方向に育っていきつてしまいます。それに気付くのが遅れるほど思わぬ形で表れてきます。
オムツを例にとりましたが、便利という長所の裏側の見えにくい部分がある、人間が生きていくための感覚が育ちにくいという短所を、子育ての課題として意識してほしいと思います。

ペットの飼育は、責任を持つて

私の近所では、よく猫や犬が捨てられています。それも、アメリカンショートヘアとかビーグル犬です。
先日は、黒い耳で白地に黒いぶちのある、ひと目でただの雑種犬ではないかと思われる犬でした。今までも何匹かは、拾われてゆき、飼ってもらっている例もあります。しかし、引き取る側にも限度があります。先ほどの犬は、保健所に連れて行かれました。

手続きも簡単、助かりました

先日、主人（30代）がぎっくり腰になり、全く動くことができなくなりました。そこで、福祉会館で車いすを貸していただくようお願いしてみました。
市民なら、誰でも無料で貸していただけるのです。手続きもあつと言う間でしたし、職員の親切な対応で気持ちよく借りられました。車いすって便利ですね。本当に助かりました。
（下米田町 Wさん）

介護用ベッドや車いすを無料でお貸しします。



「子育て」特集を読んで、最近感じたこと

市社会福祉協議会では、在宅で介護してみえる寝たきりのお年寄りや、下肢の不自由な人に介護用ベッド、車いすを無料でお貸しします。また、床ずれのできてくる人には、エアマットを無料（専用シーツは有料）でお貸ししています。なお、一時的に車いすなどをご利用されたい場合も、お貸しします。お気軽にご相談ください。

ものがいっぱいあり、広い店内は万引きの温床にならないか心配です。なかには、この不況で将来に不安を感じたり、進路に悩みながらも、無意味にスーパーをうろろろする高校生もいることと思います。若いお母さんたちばかりでなく、そんな高校生たちのためにも、悩みを相談したり、話し合う場があればいいのにと、「子育て」特集の記事を読んで思いました。
（市内 Sさん）

幼児のせつかん死など、悲しいニュースが多い中、子育て支援の輪が広がり、支えあえれば、楽しい子育てができると思います。そこで、最近感じたことがあります。市内には昨年暮れに、大型店舗ができて主婦にとつてはありがたいことですが、気になるのは、高校生の多いこと。ファーストフード店での友人とのおしゃべりは、とても楽しいひとときであると思います。ただ、若い人の欲しがる

あなたの身近な話題やうれしかったこと、腹がたったこと、「広報みのかも」を読んだ感想や、特集として取り上げてほしい内容など、気軽に電話やはがき、ファックスまたは電子メールでお寄せください。（広報誌上は匿名で掲載しますが、住所・氏名・電話番号は必ず、お知らせください）
あなたの声をお待ちしています。
〒505-8606 美濃加茂市企画部総合政策課広報係
でんわ 0574-25-2111（内線239・241）
F A X 0574-28-1290
Eメール kouhou@city.minokamo.gifu.jp